会越・御神楽岳・前ノ沢左俣

Ｔ野

2023 年 9 月 23 日～24 日
メンバー：　Ｔ野・Ｔ村ｅ・Ｔ村ｍ・Ｔ中ｍ・Ｓ口

御神楽岳は、東面に壮大な岩壁を擁した「会越の谷川岳」とも称される秀峰である。標高は 1400mにも満たないが、とてもそうは思えないアルペン的な迫力のある山容を誇っている。

今回は、昨年に続いて 2 回目の来訪だ。昨年は紅葉の最盛期に蝉ガ平から栄太郎新道を登り、室谷コースに下山した。栄太郎新道は僕と同い年、1959 年に開かれた道である。よくぞこんなところに・・・と思えるデンジャラスなロケーションに開拓された登攀具不要のルートである。もちろん、一般登山道としては上級向きではあるが、逆にそれが面白く、御神楽岳東面の壮大な岩壁を常に眺めながらの登高は、他では決して味わえないダイナミックなルートで、昨年は錦秋に染まる素晴らしい景観とスリルを存分に味わった。

■写真上　入渓点は里山の小川の雰囲気。
■写真下　だんだんゴルジュっぽくなってくる。

また、御神楽岳にはいくつものバリエーションルートが存在するが、どのルートも手強いルートばかりで、我々のレベルでは気軽に取り付けるルートは少ない。ところが、昨年、初めて訪れて、報告を書く際にいろいろ調べていると、我々でも手が届く快適そうな沢登りルートを見つけた。それが今回計画した前ノ沢左俣である。どうやら、会越の渓独自の彫の深い岩盤の発達した渓相をミニチュアにまとめた感じの渓のようである。遡行グレード 2 級くらいらしい。遠方から睡眠不足で訪れる我々にとって、標高差 1200m近いルートの日帰りはきついが、何と、都合の良いことに、地図で見る限り極狭の渓の中にビバーク適地もあるようだ。「いいとこみっけ！！これは何としても来年計画しよう！！」と報告を書きながら思っていた。ただし、覚えていたらの話であるが・・・。

　そして今年、ちゃんと覚えていた！！
　水量が少ない渓なので虫たちが影をひそめる秋を待って計画した。メンバーもサクッと集まり、天候も今回は良さそう・・・ということで報告です。

■写真上　岩盤の発達した美渓だ！！
■写真中　二俣付近はすごいゴルジュ！！
■写真下　快適に登って行ける。

　9/23
　前夜は東北道～磐越道をひた走り、25 時過ぎに「道の駅西会津」にたどり着き仮眠。今日の行動は標高 800m付近のテンバまでの比較的のんびり行動、6 時間も見ればよいだろう。ということで朝、コンビニで買い出し、朝食を済ませ、入渓点に延びる林道分岐付近の駐車可能な場所に車をデポ（大沼付近の車道路肩の空き地）。準備して 8:10 出発。入渓点に向け林道を歩く。天気は予報に反して芳しくなく、時に小雨がパラつく。好転を信じて歩き始めるが、林道は徐々に荒れて、最後は薮漕ぎ状態となるが、約 30 分で入渓点に到着。この流れの上流にゴルジュや滝が発達した渓があるとは思えない、穏やかで水量わずかな、何の変哲もない里山の小川である。ここで沢装備となり 8:56 入渓。最初は穏やかな雰囲気だがすぐに「会越」らしさが現れ、渓の側壁はスラブとなり、Ｖ字状のゴルジュが発達してくる。やがて二俣で右俣を分けると、完全に岩盤の発達し

たゴルジュの渓となる。水量はチョロチョロだが、側壁は、迫力満点！！ところどころ胸まで水に浸かって遡行する。こんな場所で直登不能な滝の１つでも出てくれば即敗退！！というところだが、うまい具合にずっとその景観を満喫しつつ、突っ張ったり、へつったり、水に浸かったりしながら楽しく遡行できてしまうので嬉しくなってしまう。

　このゴルジュを突破すると、いったん渓は落ち着きを取り戻し、森が谷底に下りてくる。良く探せば、この辺りにもビバーク適地が散在するがさすがにまだ早すぎるので先に進む。ミニゴルジュやミニ滝、甌穴等、全て規模は小さいがいかにも「会越」を誇示しているような渓相だ。ちょっとした滝でも場所によっては直登できずに高巻かなければならない場所もある。誉め言葉として、「なりは小さいが一丁前の生意気な小僧」のような渓である。

■写真上　ゴルジュが終わると森が下りてきて癒しの渓相。
■写真中　小難しいこんな滝もたくさんある。
■写真下　水量は少ないが彫が深く胸まで浸かる場所もある。

　水量的にはすでに詰めのような雰囲気なのに、ここから渓は再び険しさを増し、小難しい滝がいくつも出てきて、それら

を丁寧に処理していくが思ったより時間がかかる。

やがて、渓が開けて明るくなるとスラブ状の連瀑帯が登場する。高さのある滝が多く、我々のレベルだとロープの確保は欠かせないのであっという間に時間が過ぎる。ただ、景観は申し分なく、易しすぎず難しすぎずで、渓も変化に富んでいて遡行は楽しいことこの上ない。

ところで、当初、今回は岩盤の発達した会越の渓なのでソールはラバー一択だと思っていた。ところが、登るにつれ、思った以上にぬめりが酷く、どちらかといえばフエルトに分のある状況だった。特にmさんのラバーソールはやたらとよく滑り、まるで生まれたての小鹿状態！！　靴自体それほど消耗はしていないが、秀山荘のバーゲンで購入して、もったいないのでずっと温存していたとか・・・。それってもう5年以上前の話でしょう！！一般的に車のスタッドレスタイヤの寿命は3年過ぎるとグリップ力がどんどん落ちてくる。それは使用するしないを問わず経年劣化という現象が起きるので仕方のない事だ。沢靴のラバーも同様で、5年も経つとゴムは硬くなりグリップ力は落ちてくる。これからは、ラバーソールは温存せずに購入したらすぐに使いましょう！！今回の教訓である。

■写真上　徐々に渓はスラブの連瀑となる。
■写真下　高さのある滝が連続する。巻きも悪いので極力直登する。

　mさんには僕が持参したフエルトサンダルを特別に貸してあげると、サイズが大きいので細かいスタンスは拾えないが、それでも「全然違う！！」と言っていつもの安定した歩行が戻ってきた。

　さて、連瀑帯はさらに続く。そして小事故発生が発生した。mさんがラストで5m位の滝をフリーで登攀中、ほぼ滝頭で木の枝をつかんで体重をかけたところ、その枝が折れて5m近く頭から落下、斜瀑だったので自由落下ではなかったため奇跡的にほとんど無傷。ホッとしたがｅさんの「mさんが落ちた！！」の叫び声には背筋が凍った。予想以上の長時間行動で疲れも出ていたのだろう。こういう時こそ、焦らずに落ち着いて気を引き締めて登るべきだった。何はともあれ怪我がなくてホント良かった！！会越の渓の神様に感謝である。

（後で確認したらヘルメットが割れていた。頭を守ってくれたヘルメットにも感謝！！）

■写真上　快適に登れる滝！！
■写真中　800m付近のテンバ。
■写真下　二日目も滝場は続く。

　さて、14時くらいには楽勝でテンバ、と思っていたが、連瀑帯で思った以上に時間がかかり、二

俣に着いたのが 16:30、結局 1 日フル行動であった。本流は右俣だがテンバは左俣に入った右岸にあった。1 段上の段丘もテンバ適地のようだが、水はチョロチョロで雨が降る予報もないので水流横の右岸を土木工事して 5 人が快適に眠ることができるテンバに仕上げた。ヘッデンが必要になるころに焚き火点火！！燃えにくい着火剤でも一発点火、すぐに良い火になる。グッチプロデュースの中華風春雨丼は美味、ビールも日本酒も美味しい。やっぱ焚き火はいいな！！

■写真上　安全第一でロープを伸ばす。
■写真下　小難しいツルツルゴルジュ！！

9/24

朝 4:00 起床予定が爆睡。目が覚めるとすでに明るい！！時間を見ると 5:30、完全に寝過ごした。慌てて朝食準備、最近おなじみのチキンライスとトマトスープのリゾットにしたが、5 人でジフィーズ 2 袋ではさすがに量が少なすぎた、反省。焚き火は割愛。何とか 7:05 出発。

渓の雰囲気はもう完全に詰めの様相だ。しかし、ここは会越、まだまだ小難しい滝場が散在する。薮っぽくなったかと思えば、明るく開けた 10mクラスのスラブ滝が現れたり、3～5mのツルツルのゴルジュ滝の連瀑が現れたりで、直登したり巻いたりでロープも頻繁に必要で、昨日同様対応に忙しい。ひとつひとつ時間を気にせずに安全第一、丁寧にこなしながら登ること 4 時間、漸く渓は浅くなり本当の詰めとなる。最後まで沢筋を行けばほとんど薮漕ぎもなく、最後の 5 分位ちょっと薮を漕げば登山道にひょっこり飛び出す。

天気は秋晴れ、越後・川内・会越・飯豊・尾瀬の名峰たちが手に取るように望め爽快な気分。ザックをデポして山頂に向かう。歩くこと約 30 分で御神楽岳山頂！！去年歩いた栄太郎新道が格好良いスカイラインを描いている。遠く尾瀬の燧ケ岳の猫の耳のような特徴ある山容がカ

ワイイ。川内の矢筈岳は標高こそ低いが、ここから見る山の中ではピラミダルで僕的には一番のお気に入りだ。いつか踏んでみたいピークである。

さて、景色を堪能したら下山だ。盛さんが御年66とは思えぬ屈強な足腰で、ズルズル滑る登山道を滑る前に足を出して駆け下り、入渓地点にデポした車を回収してくれた。感謝！！

滑りやすい下りを転びながら約3時間、這う這うの体で下山した。僕は途中転んだ際、背中を捻って「ぎっくり背中」になり、痛みが取れるまでしばらくかかりそうだ。mさんも滑るラバーソールで何回も転び、まるで敗残兵。それでも遅れながらもノーレストで歩き切り放心状態。ホントお疲れさまでした！！

■写真上　栄太郎新道のスカイライン！！
■写真中　御神楽岳山頂！！
■写真下　越後の名峰を望みながら下山！！

前ノ沢左俣は、小渓であることには間違いないが、一筋縄ではいかないなかなか手強い渓でした。ただ、今の我々の実力でも考えながら楽しんで登れる渓でした。景観も素晴らしく、変化に富み、飽きることなく遡行できる秀渓で、最後は会越の名峰御神楽岳も踏めるということで、あまり知られてはいませんが、会越入門の渓としてはお薦めの1本だと思います。ただ、

同じ２級でも巻き道の踏みあとがしっかりしている首都圏の沢と比べると草付きの高巻きはリスキーな場所も多く、ルートを読む判断力が必要で１ランク上に感じると思います。
　ご一緒したメンバーの方、とにもかくにもお疲れさまでした。おかげさまで、また未踏の渓を一つ登ることができました。また、こういうあまり知られていない楽しい渓を見つけて遡行したいと思いますので宜しくお願いいたします。

■コースタイム
9/23
大沼付近の車デポ地（8:10）～（8:40）入渓点（8:55）～（9:25）二俣～（16:30）奥の二俣800m付近
9/24
奥の二俣800m付近（7:05）～（11:40）登山道（11:50）～（12:25）御神楽岳（12:40）～（15:40）室谷登山口